

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所属 人間科学部

名前 川村春美

作成日 2026.4.30

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

人間科学部および保健医療学部において、将来、人間を対象とした職業に従事し、人間に関わるデータを扱う際に必要となるデータリテラシーを醸成することを目的として、以下の科目を担当しています。

○人間科学部・心身健康科学科（通信課程）

AIデータ活用リテラシー（N）、AIデータサイエンス入門（S）、人間総合科学の理解Ⅰ・Ⅱ、人間総合科学の探究Ⅰ・Ⅱ、こころとからだのデータサイエンス ステップ（S）・アドバンス（S）、ヒューマンⅡ（N）、ヒューマン—未来社会の幸福—（S）

○人間科学部・健康栄養学科

コンピュータ入門、AIデータ活用リテラシー

○人間科学部・ヘルスフードサイエンス学科

コンピュータ入門、AIデータ活用リテラシー

○人間科学部・心身健康科学科（通学課程）

コンピュータ入門、データサイエンスのための情報科学入門、AI・データ活用リテラシー、データサイエンスのための基礎数学Ⅰ、ウェルビーイング探究Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション演習、ヒューマンⅠ、心身健康科学Ⅱ、ウェルビーイング演習

○大学院・心身健康科学専攻

心身健康科学特講、心身健康科学特論Ⅱ・Ⅲ、健康情報処理学（T・S）、データサイエンス研究法入門、心身健康科学特殊講義（T・S）、心身健康科学特殊演習Ⅰ（EX）・Ⅱ（EX）・Ⅲ（EX）、心身健康科学研究Ⅰ・Ⅱ、心身健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

○大学院・健康栄養学専攻

データサイエンス特講

2. 理念（教育に対する考え方）

教育の質保証では、教員側が何を教えたかではなく、学生側が何を学んだか、どのようなスキルを身に着けたかが重要なポイントになります。

データサイエンスでは、データを扱えるようになることが目標です。即ち、既存のツールを用いてデータ間に潜む関係性を取得できるようになることです。そのためには、データがどのような性質を持っているのかを理解すると同時に、データを扱うための様々な道具（統計的手法、プログラミング手法）の特性や使い方を熟知していることが重要になります。

理論と実践を組み合わせ、トライ＆エラーのプロセスを繰り返すことによって、学生側が自らデータ処理手法を取捨選択し、判断できるようにサポートしていきたいと考えております。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

データサイエンスの基本は技術です。技術の詳細を説明する前に、身近にある事例に焦点をあて、技術の概念を理解してもらうことに重きをおいています。その後は、データを扱うための様々なツールを使いこなせるよう、ステップを踏みながら、段階的にスキルを獲得できるように心がけています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

2024年9月より入職のため具体的な成果はありません。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

2026年度

- ・心身健康科学（通学課程）は、新規科目が多いため、今年度以降、順次年度毎に新規の教育コンテンツ（授業資料）を作成し、時間配分や改善箇所を把握し、次年度につなげたいと考えております。
- ・学部4年次学生の「理解」と「探究」指導を行い、単位取得ができるよう指導する予定です。
- ・修士・博士課程の学生、特に1年生には、論文調査のフォローを行いながら、研究テーマの選定および方向づけを行いたいと思います。

中期目標（～2028年度末）

- ・授業コンテンツを年度毎の微調整・最新化のみの変更に限る程度までに完成度を上げる予定です。
- ・修士・博士の指導をしながら、心身相関に関わる知識を蓄積し、目途をもちながら学生指導ができるようにしたいと考えております。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。

・シラバス

（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）